

ハッ場ダム関係地元住民と国土交通大臣との意見交換会について

日時：1/24（日）、14:00～16:15

場所：「若人の館」（群馬県長野原町）

出席者：（国土交通省） 前原大臣、馬淵副大臣、三日月政務官
（地元等） ハッ場ダム建設事業に係る地元住民（138名）
群馬県知事、長野原町長、東吾妻町長

○ 意見交換会概要

（前原大臣からの挨拶、説明）

- ・ 冒頭、政策変更によって地元で迷惑をかけていることについてお詫び申し上げた
- ・ ハッ場ダムの本体工事の中止の方針を決断した3つの理由、「できるだけダムにたよらない治水」への政策転換に基づいてハッ場ダムを含めた全国のダムを検証することになったことを説明
- ・ 仮に許されるなら、ダムを前提としない生活再建に関する意見交換を申し入れ

（住民から出された主な意見）

- ① ダム中止方針の撤回とダムを前提とした地域振興の推進（ダム中止の場合の議論はしない。旅館は全て代替地へ移転）
- ② 湖面1号橋の早期完成など生活再建事業の早急かつ確実な実施、予算確保
- ③ ダム中止を民主党マニフェストに掲げた根拠への疑問と批判
- ④ ハッ場ダムと建設継続とした胆沢ダムとの違い
- ⑤ 一都五県は治水、利水上必要としており、一都五県の意見も聞くべき

（住民意見に対する大臣からの回答）

- ① 個々のダムを中止した場合の評価も大事だが、トータルコストの削減という観点で判断。中止した場合の予算措置等の手当は行うのが基本スタンス
- ② 湖面1号橋を含め、生活再建については、今回の意見も参考にし、年度末までに来年度の予算内容を具体化（箇所付け）する
- ③ 自分自身はハッ場ダムに来ていないが、他の議員が住民の意見を聞いた。大勢の中では言えない本音も個別では聞こえてくる
- ④ 今回の検証は本体工事着手という客観的基準で区分。胆沢ダムは本体工事中
- ⑤ 下流都県と意見交換する中で予断無く検証を行う

○ 意見交換終了後の取材での大臣の発言概要

- ・ ダムを前提としない生活再建については、あまり時間をかけられない。許していただけるなら、一日でも早く話し合いを始めたい
- ・ マニフェストに掲げた中止の方針は変えないが、予断無く検証を行っていく